

2025年
8月6日
第12号

ひょうご NIE 通信

—2025 神戸大会へ—

発行 NIE 神戸大会事務局 〒650-8571 神戸市中央区東川崎町1-5-7
☎078-362-7003 メール hyogo-nie@kobe-np.co.jp



新聞で社会とつながる学び

NIE 神戸大会 公開授業4校、子どもら生き生き

7月31日、8月1日に神戸市で開かれた「第30回NIE全国大会神戸大会」には教育やメディア関係者ら約1800人が参加した。2日目に行われた分科会から、全4校の公開授業を紹介する。

兵庫県立北神戸総合高校(神戸市北区)は「新聞にツッコミを！～デジタル世代の『読む・問う・つなぐ』力～」と題して授業。1年生は事前に、グループごとに「政治」「夏×動物」などのテーマで、記事を切り抜き、新聞を制作。ニュースに対する意見(ツッコミ)も書き込んだ。

授業では生徒が新聞を持ち、見学者らと意見を交わした。指導した久保淳平教諭は「問いを立て、他者とつながり、行動を起こす生徒を育てたい」と話した。

姫路市立豊富小中学校は「新聞で開くメディアリテラシー」と題した公開授業を行い、前期課程の6年生24人が参加。東日本大震災の記事を扱った今年の各地のこども新聞などを読み比べ、違いや背景についてグループで話し合った。

指導した前野翔大教諭は「地域や時期による違いを見つけ、情報の向こう側には、人がいる、発信者の思いがあることを意識させたかった」と意図を語った。

甲南小学校(神戸市東灘区)は、お薦めの記事を紹介し、最も読みたくなった記事を投票で決める「シンブリオバトル」の授業を行った。

4年生28人は新聞から「押し記事」を選び、ノートに貼り、驚いたことや疑問などをまとめた。クイズも盛り込むなどして発表した。授業に取り組む講師・司書の田代弘子さんは「児童はニュースと自分の生活を結び付け深く考えられるようになった」と手応えを語った。

全校生徒約800人が週1回、気になる記事を切り抜いて貼る「NIEノート」に取り組む、西宮市立浜脇中学校。

授業はノートを使って行われ、3年生約30人が、地震など切り抜いた記事に関する感想や提案を発表し合った。渋谷仁崇(よしとか)主幹教諭は熱中症を取り上げ、深掘り。生徒は新聞から暑さに関する記事を探し議論を深め、どうやって自分や他人の命を守るのかを考えた。

授業の最後に、生徒の一人が「ノートを続け、社会の出来事に関心を持つようになり、良かった」などと効果を語り、別の生徒が「私たちの取り組みが他の学校や全国に広がってほしい」と提案した。

(NIE神戸大会事務局 網 麻子)



各地の学校などが実践例を紹介したポスター発表
南大学岡本キャンパス

全国の NIE 実践例を紹介

71校・団体・新聞社 ポスター発表

神戸大会では、昨年の京都大会に続いて NIE の実践例を紹介するポスター発表が行われ、北海道から沖縄まで 71 校・団体・新聞社が 77 枚を出展した。

戦後 80 年を迎え、平和学習に関するポスターが目を引いた。広島県呉市立荘山田小学校の高下千晴教諭(日本新聞協会 NIE アドバイザー)は、中国新聞の連載「ヒロシマドキュメント」を題材として、平和の意義を考える授業の成果をまとめた。全国大会は来年の広島に引き継がれる。

阪神・淡路大震災 30 年を迎えて設けた「防災と NIE」コーナーでは、阪神・淡路や東日本大震災(2011 年 3 月)、北海道胆振東部地震(18 年 9 月)、能登半島地震(24 年 1 月)、迫りくる南海トラフ地震などを扱った NIE 活動が紹介された。

大会スローガン「いのちを守る NIE」にふさわしい発表になったと思う。(兵庫県 NIE 推進協議会事務局長 三好正文)

「ひょうご NIE 通信-2025 神戸大会へ-」は今回が最終号です。ご愛読ありがとうございました。

公開授業で発表する北神戸総合高校の生徒 8 月 1 日、甲南大学岡本キャンパス



神戸新聞 2025年07月25日 金曜日 面名 教育 1 13 15ページ

なおみ先生の NIE 教室



新聞がなくなるとどうなるか。生成 AI (人工知能) に尋ねると「情報源の多様性が失われ、地方のニュース、分析記事が減る。社会の監視機能が低下し、誤情報の拡散や情報格差の拡大が起こる」。地方紙がどんどん廃業している米国では、市の行政官が自分の年間給与を500万円から6400万円にこっそり引き上げていました。不正や汚職が横行、地方選挙では候補者の情報が不足し、投票率が大幅に低下しました。日本でも選挙に行かない理由は、党や候補者のことが分からないから一

⑫ 新聞がなくなると

とされます。

新聞は記者が現地取材し、デスク、校閲、編集長がチェック。新聞社によって主張は違いますが、内容にうそはありません。学校で、新聞を基に各党の政策を生徒自身がまとめるのは、政治的中立に抵触しません。模擬投票や架空の選挙ではなく、現実の政党や候補者について知ることができます。

雨の日も雪の日も、新聞は家に届けられます。知的障害のある人が配達している地域もあります。地域の人とあいさつを交わしたり、ジュースをもらったり。独居老人の見守りにも役立っています。新聞は地域のつながりや、

民主主義を守っています。7月31日、8月1日に第30回NIE全国大会神戸大会が開かれます。ジャーナリスト池上彰さんらによるパネル討議や、新聞を活用した公開授業、実践発表が行われます。オールメディアと揶揄される新聞の良さを見に来てください。

(NIE・NIB推進部顧問 吉田尚美)

◆NIEは学校で新聞を教材として活用する活動です。この連載は第4金曜に掲載。

よしだ・なおみ 兵庫県稲美町出身。県内の公立高校国語教諭、県教育委員会指導主事、三木北高校長、播磨南高校長などを経て現職。

身近な情報減り、つながりも薄く

2025年7月25日付神戸新聞朝刊教育面に掲載されました

グラレコが描いた「学びの風景」

「NIE全国大会神戸大会」では、会議などの内容を文字や図・イラストで記録するグラフィックレコーディング(グラレコ)を初めて導入し、好評を得ました。担当いただいたのは「らくがきレコーダズ神戸」の皆さん。一部を紹介します。



北神戸総合高校公開授業のグラレコ制作中



パネル討議をグラレコにすると



甲南小学校公開授業のグラレコ



芥川賞作家小川洋子さんの記念講演もグラレコに

サートラスの授業目的公衆送信補償金制度

授業目的公衆送信補償金制度は、2018年5月の法改正で創設された制度です。

教育機関の設置者（教育委員会、学校法人等）が、一般社団法人授業目的公衆送信補償金等管理協会（SARTRAS・サートラス）に補償金をお支払いいただくことにより、授業の範囲内で著作物をインターネット経由で送信（＝授業目的公衆送信）できるようになります。（利用は「その必要と認められる限度」とし、著作権者の利益を不当に害するような利用はできません）

詳細は「授業目的公衆送信補償金制度とは」と検索ください。



第30回 NIE 全国大会神戸大会（日本新聞協会主催、兵庫県 NIE 推進協議会・神戸新聞社が主管）は、SARTRAS の助成金により、運営資金の一部がまかなわれています。